

国際物流における 情報共有化会合

国際航空貨物の現状および課題
発表資料

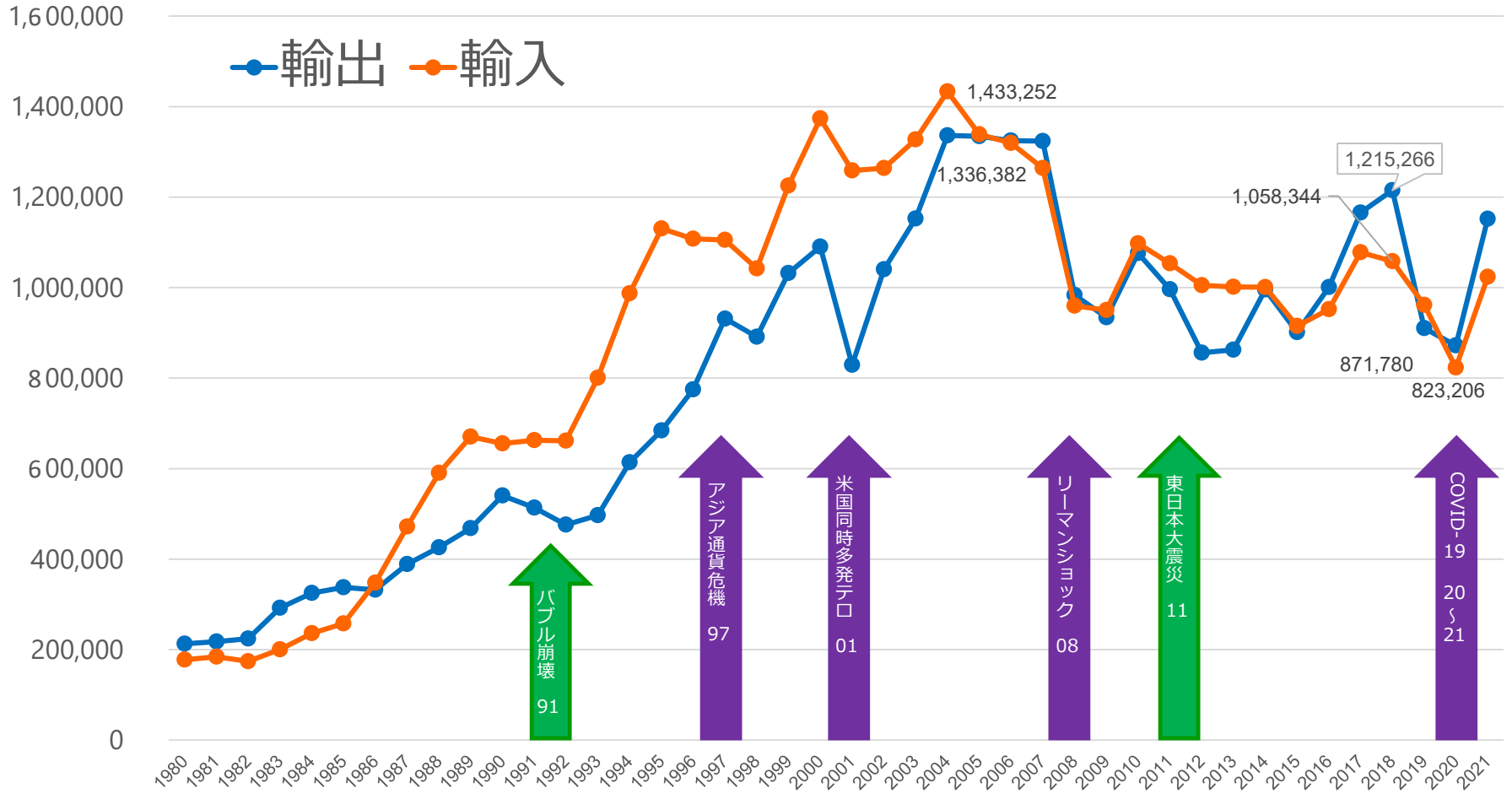
2022年6月17日

一社) 航空貨物運送協会

発表骨子

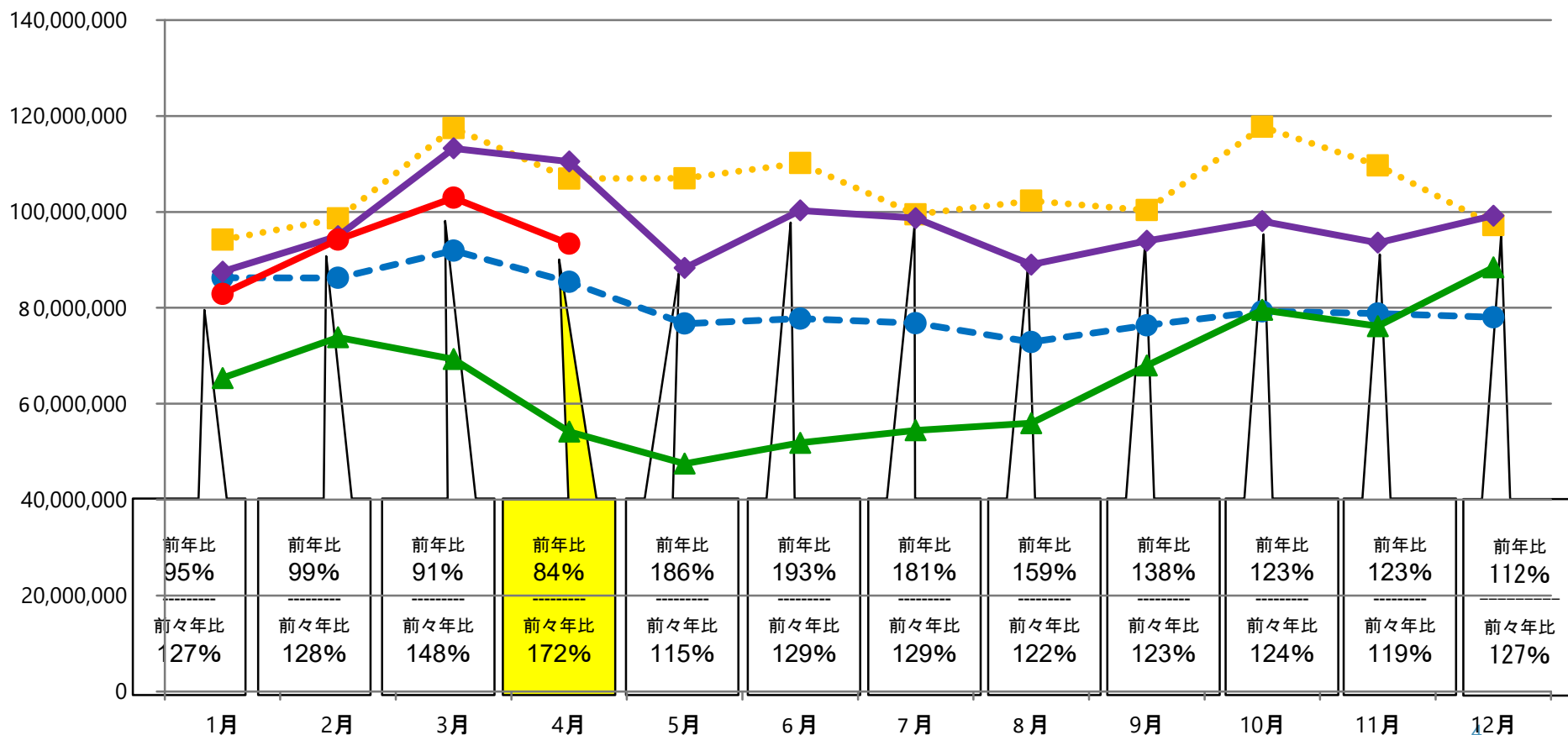
1. 直近の日本発航空貨物物量（4月）等
 2. ロシア・ウクライナ情勢に関する国際航空貨物物流への影響
 3. 上海ロックダウンに係る国際航空貨物物流への影響
- 尚、発表の「2.」「3.」につきましては、一般混載および国際宅配便取扱い事業者へ聞き取り調査し、情報を集約しました
 - 航空貨物への影響
 - 会員の現地法人、代理店の対応
 - 荷主様への対応、緊急出荷への対応
 - 課題

1-1. 日本発着航空貨物物量年度推移



1-2.輸出航空貨物実績推移（重量）

● 2018年 重量 ● 2019年 重量 ▲ 2020年 重量 ◆ 2021年 重量 ● 2022年 重量

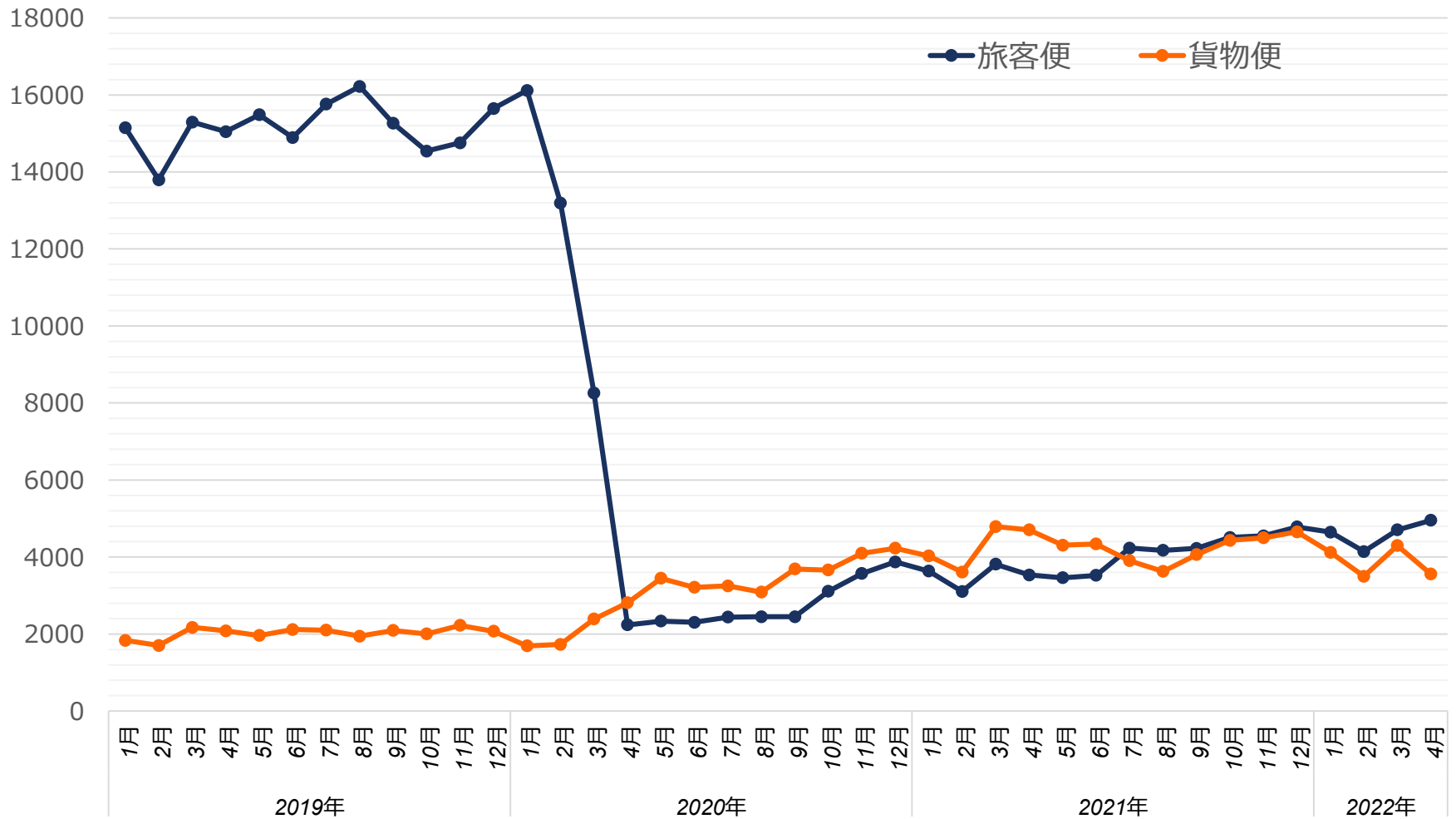


出典：JAF A実績統計より

1-3. 2022年4月 日本発輸出航空貨物（混載）実績から

	全体比	2021年4月比
ヨーロッパ向け全体	混載実績の15.9% (2021年4月は、全体の16.0%)	83.7%
中国向け (香港は含まず)	混載実績の18.1% (2021年4月は、全体の21.8%)	70.3%
アジア（TC-3）向け 全体	混載実績の60.4% (2021年4月は、全体の58.2%)	87.7%
全世界	2022年4月混載貨物取扱実績 93,335.8トン	84.5%
米州（TC-1）向け	混載実績の22.8% (2021年4月は、全体の22.2%)	77.3% (特に中西部向けは64.5%)

1-4.成田空港発着回数推移



1-5. IATA発表4月実績より

Air cargo market in detail - April 2022

	<i>World share</i> ¹	April 2022 (% year-on-year)			
		CTK	ACTK	CLF (%-pt) ²	CLF (level) ³
TOTAL MARKET	100.0%	-11.2%	-2.0%	-5.3%	51.6%
Africa	1.9%	-6.3%	-1.5%	-2.5%	49.0%
Asia Pacific	32.5%	-15.8%	-19.4%	2.7%	63.1%
Europe	22.9%	-14.4%	-0.2%	-9.6%	57.8%
Latin America	2.2%	40.9%	67.8%	-8.0%	41.9%
Middle East	13.4%	-11.9%	6.0%	-10.2%	50.4%
North America	27.2%	-6.6%	5.2%	-5.3%	41.9%
International	87.2%	-10.6%	1.2%	-7.6%	58.1%
Africa	1.9%	-6.3%	-2.2%	-2.2%	49.8%
Asia Pacific	29.5%	-12.1%	-5.2%	-5.4%	68.9%
Europe	22.5%	-14.4%	0.1%	-10.2%	59.8%
Latin America	1.8%	44.0%	69.3%	-8.8%	50.1%
Middle East	13.4%	-11.8%	6.2%	-10.3%	50.7%
North America	18.0%	-7.7%	1.3%	-5.1%	51.8%

¹% of industry CTKs in 2021

²Year-on-year change in load factor

³Load factor level

出典：IATA Air cargo
Analysis Apr 2022より

1-6. 航空貨物マーケット 2022 vs 2019

Air cargo market - 2022 vs. 2019

	<i>World share</i> ¹	April 2022 (% ch vs the same month in 2019)			
		CTK	ACTK	CLF (%-pt) ²	CLF (level) ³
TOTAL MARKET	100.0%	-1.0%	-10.6%	5.0%	51.6%
International	87.2%	-0.5%	-11.8%	6.6%	58.1%

¹% of industry CTKs in 2021

²Change in load factor vs same period in 2019

³Load factor level

	<i>World share</i> ¹	April 2022 (% ch vs the same month in 2019)			
		CTK	ACTK	CLF (%-pt) ²	CLF (level) ³
TOTAL MARKET	100.0%	-1.0%	-10.6%	5.0%	51.6%
Africa	1.9%	7.7%	-16.3%	10.9%	49.0%
Asia Pacific	32.5%	-13.4%	-28.9%	11.3%	63.1%
Europe	22.9%	-5.8%	-18.5%	7.8%	57.8%
Latin America	2.2%	-3.0%	-19.1%	7.0%	41.9%
Middle East	13.4%	2.2%	-5.3%	3.7%	50.4%
North America	27.2%	18.6%	14.5%	1.4%	41.9%

International	87.2%	-0.5%	-11.8%	6.6%	58.1%
Africa	1.9%	8.8%	-14.8%	10.8%	49.8%
Asia Pacific	29.5%	-8.6%	-23.4%	11.1%	68.9%
Europe	22.5%	-5.8%	-17.8%	7.6%	59.8%
Latin America	1.8%	-1.0%	-17.4%	8.3%	50.1%
Middle East	13.4%	2.3%	-4.2%	3.2%	50.7%
North America	18.0%	18.9%	9.3%	4.2%	51.8%

¹% of industry CTKs in 2021

²Change in load factor vs same period in 2019

³Load factor level

IATA統計より

- 4月の貨物輸送トンキロ（CKT）は対前年同月比で▲11.2%
 - 国際輸送に限ると▲10.6%， そのうち地域別で欧州▲14.4%，
アジア太平洋▲12.1%， 北米▲7.7%， 中南米のみプラス44%と好調の模様
- 4月のACKTを国際輸送で見ると、対前年同月比でプラス1.2%，
アジア太平洋で▲5.2%， 紛争等による影響の継続と推測
- 2020～2021年からのロードファクターの下落傾向が、スペースクラシチの緩和になりうると考える
- 世界的なインフレ傾向により消費需要が抑制され、米国を除く地域から足元の輸出成約減速傾向がみられるものの、中国のロックダウン解除とアジア地位などでの輸送力増加により、5月以降の貨物需要の要因となり得る

2022年4月

TOKYO CUSTOMS NARITA AIR CARGO SUB-BRANCH
東京税関成田航空貨物出張所



成田空港貨物取扱量

総取扱量が2か月連続で減少

概要

2022年4月の成田空港における国際航空貨物取扱量は、

総取扱量	204,731トン	(対前年同月比	5.8%減)
積込量	94,921トン	(同	9.9%減)
取卸量	109,810トン	(同	1.9%減)

となり、対前年同月比で見ると総取扱量、積込量は2か月連続で、取卸量は19か月ぶりにマイナスとなった。



生鮮・ドライ取卸貨物動向

2022年4月の成田空港で輸入された貨物(成田地域通関分)を生鮮貨物、ドライ貨物別にみると、

生鮮貨物	9,030トン	(対前年同月比	8.7%減、シェア	13.2%)
ドライ貨物	59,159トン	(同	2.2%増、同	86.8%)

となり、ドライ貨物は19か月連続で、対前年同月比がプラスとなった。

生鮮貨物は、果物(対前年同月比16.6%減)、肉類(同13.1%減)等の減少により、3か月連続でマイナスとなった。

2. ロシア・ウクライナ情勢の影響（当協会会員への聞き取り）

航空貨物（対欧州）への影響

- シベリア上空飛行ルートからアンカレッジ、中央アジア、中近東経由の「迂回ルート」が常態化。スペース不足や経由地での滞貨、遅延等が発生

現地法人・現地代理店（ウクライナ・ロシア発着貨物に関し）

- ウクライナに関しては、キーウのみ営業再開、人道支援物資の国境までの輸送のみ受託、営業停止等
- ロシアに関しては、発着貨物の受託停止、業務移管の検討、運賃前払いのみ受託など個社により対応が分かれる

3. 上海ロックダウンに係る影響（当協会会員への聞き取り）

航空貨物への影響

- 上海空港への搬出入・地上の輸配送が停滞していたが、5月末ないし6月初めより航空貨物の受託再開
- 輸配送のドライバー不足、空港ハンドリングスタッフ不足
- 当局指示により消毒目的のため貨物到着後7～10日程度の営業所保管が続く
- 徐々に滞貨貨物の引き渡しが始動され、営業所での引取りも多い
- サービス再開については、適宜ホームページ、SNSで情報提供を実施

対応策

- 中国内他空港の利用
- 搭載効率のよい梱包やパレタイズの実施
- 現地との情報交換、事前出荷情報の収集

課題

- 旅客便の復便
- 燃油サーチャージの高騰
- 上海ロックダウン後のスペース確保
- ゼロコロナ政策緩和
- 今後のサプライチェーン（リスク分散）